



▲開催への熱意を語る芦田さん

第44回津山納涼ごんごまつり in吉井川

とき 7月9日(土)・10日(日)
午後4時～午後9時
ところ 吉井川河川敷・奴通り
※2ページもご覧ください

時代に合わせて形で開催
開催時期を、今までの8月上旬から、夏休み前まで人の移動が少な

引き継がれてきた伝統を守りたい
昭和54年に「津山納涼まつり」の名前で始まったごんごまつりは、今年で44回目。春のさくらまつり、秋の津山まつりと並んで、たくさんの人が楽しみにしている、津山の活力の源だと思っています。ところが、感染症の影響で令和2年から2年連続でまつりが中止に。令和3年は、かなり準備が進んだ段階で中止を決定したので、特に悔しい思いをしました。夏まつりは昔から疫病退散、厄よけを願うものといわれています。感染症の終息を願う意味でも、今年は何としても開催したいという思いを強くしました。

ごんごまつりアンケート実施中！
QRコード

安心して楽しめるまつりへ
河川敷会場への入り口を2カ所に制限し、検温や消毒を徹底します。県内の感染レベルで、会場での飲食やイベントへの参加が可能かを決定するので、最新情報は実行委員会ホームページで確認してください。また、YouTubeとテレビ津山で、まつりの生配信を初めて行います。会場で、家で、ハイブリッド開催になったごんごまつりを一緒に楽しみましょう！



伝統ある津山の夏の風物詩を主催 津山納涼ごんごまつり 実行委員会

新型コロナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催となる津山納涼ごんごまつり。増減を繰り返す感染者の状況に悩みながらも開催を決めた経緯や、感染症などの対策について、実行委員会企画部会長の芦田雅嗣さんに聞きました。

い7月上旬に変更しました。また、8月上旬は1年で最も暑い時期。熱中症の予防は毎年の課題で、感染症対策のマスク着用のもも考え、少しでも涼しい時期に開催することにしました。ステージイベントなども、気温が下がり始める夕方から行います。ごんごおどりは、ソーシャルディスタンスをより広く確保し、参加する皆さんに思い切り楽しんでもらうため、鶴山通りから奴通りに移動します。今年で10周年を迎えた「和つしよい！津山」のパレードも、ごんごおどりに続けて行います。

※写真撮影時のみマスクを外しました



開催時期や場所ががらりと変わるごんごまつり。どきどきしながら参加した初めてのごんごおどり、会場で見ると迫力の花火など、思い出は尽きません。広報担当になった2年前から、撮影したいと開催を心待ちにしていた。新しくなったごんごまつりの様子を、しっかり取材してきたいと思います！

6・7ページで紹介したスパイスの主役「シヨウガ」。津山で生産されていることをご存じでしたか？約14度の低温倉庫で熟成させ、困いシヨウガとして1年中出荷。繊維が少なめで柔らかく、そうめんや冷や奴など、夏定番料理の薬味にもおすすです。市地産地消センターサンヒルズなどで購入できます。(c) 22ページ掲載の「ペンデローペン」絵付け体験教室。オランダの伝統技法と聞いて興味があわき、昨年の取材で体験してきました。花びらを丸く描く時の、繊細な筆使いに苦戦しながらも、思いどおりに描いた瞬間の喜びは、ひとしおでした。持ち帰った作品を見るたびに、伝統技法への愛着と思いが蘇ります。(三)

0868-32-2029
0868-32-2152
kouhou@city.tsuyama.jp

広報津山は、環境保護のため生紙・植物性インキを使用しています。読者のためにも、紙の回収にご協力ください。

広報津山
電子版



津山市公式
フェイスブック



津山市公式
LINE



津山市公式
インスタグラム

